



## 歴史探見ウォーク 秋色の十三湖へゴール

岩手県平泉町中尊寺を9月11日に出発した「歴史探見ウォーク」一行は、奥州藤原四代の文化と歴史を学び、『炎立つ』ゆかりの地35市町村との友好を深めて、9月15日十三湖中の島ブリッジパークへ到着しました。

中尊寺から十三湖まで460kmの行程は、参加村民118人により10区間をリレーにより昼夜休まず歩き続けられ、五日間98時間30分で踏破されました。

感動を胸に

踏破

NHK大河ドラマ「炎立つ」ゆかりの地

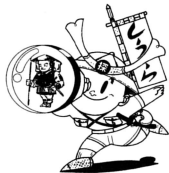
## 歴史探見ウォーク 中尊寺→十三湖 460km

## 35市町村の心を伝え継ぎ踏破



▲中尊寺本堂でのウォーク安全祈願

来年七月から奥州藤原四代をテーマとするNHK大河ドラマ「炎立つ」にちなみ、ゆかりの地岩手県平泉町から市町村十三湖までの四百六十キロを歩き、藤原四代と十三湊（安東氏）のかかわりを探る「歴史探見ウォーク」には、公歴による村民百十八人が参加。「ウォーク」は、九月十一日に出発し、のぼりと不滅の法燈をリレーしながら、十五日十三湖ブリッジパークに無事到着しました。



## 村民118人参加

「歴史探見ウォーク」は、中世に十三湊を支配した安東氏は安倍氏の子孫であり、安東氏の養子となった藤原秀衡の弟宗家は福島城主。藤原氏と安倍・安東氏は血縁関係にあり、十三湖でのロケも予定されていることから、安東の里のPRと藤原四代の歴史文化を学びながらゆかりの地市町村との友好を深め、地域の活性化を図ろうと企画されました。

参加者は、村民から公募し、未来塾生、同級生、子供会、旅行クラブ、家族参加等仲間同士や地域からと八歳から七十八歳まで、世代間を超えた百十八人のメンバーによるイベントとなりました。

参加者を九隊に編成し、コースは四百六十キロを区に分けて一区間を受けつづける隊が担当。「ウォーク」は「不滅の法燈」と「歴史探見ウォーク」

## 歴史は悠久の旅人

のぼりを引き継ぎするリレー形式で歩き続けられました。

## 出立式

ウォークの参加者の熱気は、前夜からの暴風雨と台風17号をも三陸沖へ遠ざけ、十一日の天候を出発前に変え快晴の出立式となりました。

中尊寺本堂において千三百年燃え続けている不滅の法燈の分火を受けた後、観光客約百人が見守るなか金色堂前で出立式が行われました。

高松隆三村長は「平泉から市浦までのウォークを通して、古の歴史の道を検証しながら、東北の榮華を現代によみがえらせよう」とあいさつしました。平泉町・平泉町議会・平泉観光協会・青森県観光物産課等から多数の激励を受け、丸山安四郎助役から通行手形の交付を受け、第一区隊十二名のほはら良の合図で午後二時、中尊寺を出発しました。

## 通過市町村

歴史探見ウォークは、岩手県平泉町、衣川村、金ヶ崎町、北沢市、江刺市、前ヶ崎町、水沢市、花巻市、石巻谷町、柴波町、矢巾町、盛岡市、滝沢村、雫石町、秋田県田沢町、秋田市、天王町、男鹿市、若美町、八竜町、能代市、峰浜村、八森町、青森県岩崎村、深浦町、鮎ヶ沢町、森田村、木造町、柏村、五所川原市、金木町、中里町と北上し、三十五市町村から通行手形が交付されました。

ウォークは昼夜歩き続けることから通行手形の交付式は深夜・早朝にとり行われたところもあります。この手形は現在ありますホルルに展示されていますので見学希望者はご自由にご覧ください。11月に開催される「ふるさとまつり」には歴史探見ウォーク展としても公開されます。

## 踏破パーティー

最終区間の第十区は第一区から第九区まであり、応援員が歩くコースです。応援にかけつけた五所川原青年会議所やなかとともがたり研究会員等とともに参加者百人が出迎えの村民が見守る中、中の島駐車場に十五日午後三時三十分無事到着しました。

中の島駐車場では不滅の法燈が各リレーから参加者に分火され、それぞれのウォークでの思いを火に灯しながら中の島遊歩道橋を渡り踏破記念パーティーが行われました。パーティーでは高松隆三村長が「三十六市町村の小さな灯がウォークの実施により大きな炎となり、ひとつの道が大きくなった。これを支えとして今後の地域おこしを図ろう」とあいさつ。参加者はパーベキューでお互いの旅の思い出を報告しあいながら労をねぎらいました。

(3) 広報 **しろら**

**NHK大河ドラマ**  
**「炎立つ」**  
 物話の内容

奥州藤原氏をテーマに平成五年七月から平成六年三月までの九月間放映されます。ドラマは、日本の歴史・文化を「地方」の視点からとらえ直し、中央の正史に記載されなかったみちのくからの歴史を蘇らせ、平泉黄金文化をもたらした藤原四代の興亡と、風土をテーマとするスケール

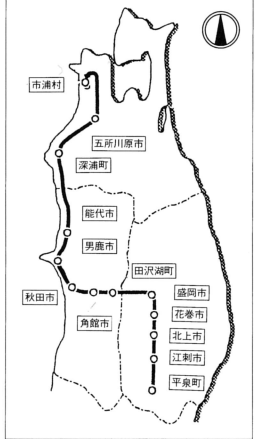
の大きな歴史絵巻になります。原作は、直木賞作家の高橋克彦氏が書きおろし、脚本は「草燃える」昭和五十四年放送）等を手掛けた中島丈博氏が担当。

安倍一族から清原氏、藤原氏と前九年の役から藤原氏の滅亡までの約百三十年間をつづり、前半は安倍一族（初代藤原清衡の母の一族・安東氏の祖）の興亡、後半は藤原四代を描く構成になっています。



▶平泉町より通行手形受領

炎立つ「歴史探見ウォーク」のコース



▶古川政幸さん  
 古川政幸さん



▶感動を新たに第十区は全員参加コース



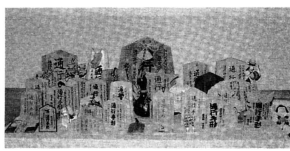
▶長旅の後はバーベキューで腹ごしらえ

歴史探見ウォークの実施に際し、ゆかりの地三十五市町村と関係各位の御理解と御支援に厚く御礼申し上げます。多大なる歓迎と声援がウォーク踏破の原動力と確信しております。この感動を支えとし今後とも地域の活性化に努める所存であります。皆様益々の御隆盛を祈念してお礼といたします。

市浦村長 高松 隆三  
 大河ドラマ「炎立つ」対策室

お礼

▶あすなるホールに展示されている通行手形



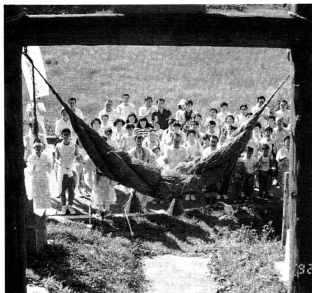


▲平泉町鹿踊りで歴史探見ウォーク出発を激励



▲男鹿市では生はげが一行を歓迎

# 歴史探見ウォーク 写真描画



▲神明宮に歴史探見ウォークの無事を報告



▲旅人の感動を炎に託し、昇天する不滅の法燈



▲最終区間中里町からゴールをめざすウォーク隊一行



▲中尊寺から不滅の法燈を受ける市浦村長



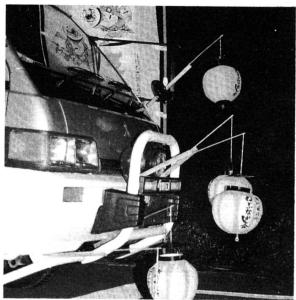
▲ほら貝の合図で中尊寺を出発



▶笑顔がウオーキングの活力源



◀不滅の法燈の点検



▶能代市からプレゼントされた提灯もひとやすみ



◀早朝、はたはたの里八森町からスタート



▲成田対策室長担当の3区はなぜか雨天



▲柏村からの差し入れじょっぱりジュースでパワーアップ

# 長寿を喜ぶことのできる社会へ

## 合言葉は「元気が最高の人生」



九月十五日、村コミュニティセンターにおいて、敬老会が行われました。

今年も、村、村社会福祉協議会、赤十字奉仕団が共催し、七十歳以上の対象者四百七十一人のうち、約二百五十人のお年寄りが出席しました。

式では、主催者を代表して小田桐恭一市浦村赤十字奉仕団委員長よりあいさつがあり、続いて、去る七月に行われた平成四年度青森県長寿福祉祭での県知事顕彰状が相内地区の三和藤太郎さん、三和善次郎さん、磯松地区の和嶋ミワさん、藤田さんと、十三地区の渋谷鶴藏さん、安田源三郎さん、松江サクラさんに伝達されました。

次に、高松隆三村長が「これからの社会は「長寿をめざす社会」から、高齢者が健康で積極的に社会に貢献できる「長寿を喜ぶことのできる社会」に変えていかねばいけません。村でも高齢者生活福

祉センターの建設により、「長寿を喜べる地域づくり」へ「一歩を踏み出しました。さらには老後の生活不安をなくするために「老人保健福祉計画」とつくる準備をしています」とあいさつしたあと、工藤武則村議会議長が「これからも健康に気をつけ長生きしてください」と祝辞を述べました。

このあと、三和孝徳市浦郵便局長が、来寿を迎えた相内地区の三和佐市郎さん、今内地区の宮本ソヨさん、太田地区の武田ヨソさん、磯松地区の伊南サナさん、脇元地区の筒井ミワさん、小寺ソソ

午後からは、各地区の赤十字奉仕団による民謡、手踊りなどのアトラクションや、しうら音頭を踊る等して楽しみながら、友人達の昔話に花を咲かせて、お互いの長寿を祝っていました。

最後に、いつまでも健康で長生き、そして、幸せのために時代と共に生きる、そうした意欲が感じられる敬老会となりました。



安来節を見事に演じる山田サナさん

いつの時代でも元気で仲の良い、二組の夫婦を紹介します。

夫婦ケンカなんてしたことありません。いつまでも仲良く暮らしていきたいですね

十三地区

安田源三郎さん(90歳)

クニさん(74歳)



二人で毎日貝つなぎをしています。相内まで徒歩で買い物に行くことが健康の秘訣です。

桂川地区

秋田谷久助さん(85歳)

きせんさん(83歳)



# 市浦村長寿番付

東 方

西 方

位	氏 名	年齢	生年月日	地区
横綱	山 田 キ ヨ	92	M33. 6.27	臨元
大関	今 井 ハシメ	91	34. 1. 3	磯松
	藤 田 は つ	91	34. 3.28	磯松
関脇	渋谷 谷 鶴 藏	90	35. 1.20	十三
	洪 安 田 源三郎	90	35. 5.24	十三
	三 和 善次郎	90	35. 7.15	相内
小结	三 宮 崎 五三郎	89	36. 5.15	十三
	木 村 平 内	88	37. 1. 1	相内
	相 川 賢 吉	88	37. 1.27	十三
	三 上 サ グ	88	37. 2.18	臨元
	山 田 タ マ	88	37. 5. 1	臨元
	宮 本 ソ ヨ	87	38. 5.10	相内
	濱 田 マ ツ	87	38. 8.25	十三
	豊 島 柏太郎	86	38. 9. 5	十三
	柳 引 ミ ワ	86	38.10.12	臨元
	伊 南 サ タ ナ	86	38.11. 1	磯松
	葛 西 サ ヨ	86	39. 2. 8	臨元
	木 村 ミ キ	86	39. 8.20	磯松
前頭	木 村 ミ キ	85	39. 9. 5	十三
	佐々木 キリセ	85	39.10. 7	相内
	葛 西 リ エ	85	39.12. 8	臨元
	秋田 谷 久 助	85	40. 1. 7	桂川
	三 和 タ エ	85	40. 5. 5	相内
	大 性 ヤ サ	85	40. 7. 1	相内
	村 元 ク ラ	84	40. 9. 7	磯松
	成 田 ツ セ	84	40. 9.25	臨元
	佐々木 由 松	84	40.11.24	相内
	佐 藤 マ サ	84	40.11.30	太田
	渡 邊 キ リ	84	41. 2. 1	臨元
	工 藤 定 吉	84	41. 2.20	十三
	豊 島 助 四郎	84	41. 4.20	十三
	奈 良 儀 助	84	41. 5. 4	太田
	花 島 乙 吉	84	41. 6.28	十三
	三 浦 直 作	84	41. 7.15	相内
	坂 井 ス ム	83	41. 9. 7	十三
	新 洪 谷 ツ	83	41.12. 5	十三
	秋田 谷 き せ	83	42. 2. 8	桂川
	柳 引 リ ワ	83	42. 2.20	臨元
	秋田 谷 兼 吉	83	42. 3.12	桂川
	中 畑 き よ	83	42. 4.10	臨元
	丸 山 キ セ	83	42. 5.31	太田
	三 和 釋	83	42. 6. 2	相内
	相 川 其 吉	83	42. 7. 3	十三
	笹 山 七三郎	83	42. 8.29	臨元

## 景御免

(平成四年九月一日現在で  
満八十三歳以上の人を対象)

勸進元市浦村役場

位	氏 名	年齢	生年月日	地区
横綱	工 藤 サ ナ	91	M33. 9. 9	相内
大関	今 井 儀 作	91	34. 3.20	相内
関脇	和 嶋 ミ ワ	90	34.11.11	磯松
	三 和 藤次郎	90	35. 2.20	相内
	松 江 サ クラ	90	35. 6.10	十三
	藤 田 肇 堂	90	35. 8. 4	磯松
小结	有 馬 ア サ	89	36. 8.29	十三
	八木澤 カ ツ	88	37. 1.15	十三
	奈 良 賢 吉	88	37. 2.15	十三
	高 橋 勇 一	88	37. 3.25	十三
	相 坂 キ ソ	88	37. 5.30	十三
	武 田 ヨ	87	38. 5.24	太田
	和 嶋 ナ ガ	87	38. 8.29	磯松
	今 井 イ マ	86	38.10.11	相内
	小 三 寺 和 市郎	86	38.10.12	臨元
	濱 田 佐 郎	86	38.11. 5	相内
	濱 田 シ	86	39. 2.23	十三
	米 谷 キ サ	86	39. 8.28	相内
前頭	三 和 タ マ	85	39. 9.20	相内
	成 田 ヲ	85	39.11.24	相内
	葛 西 幹 男	85	39.12. 8	臨元
	藤 田 彌 男造	85	40. 3.30	磯松
	山 内 キ ヨ	85	40. 5.25	相内
	秋 月 忠 藏	85	40. 8. 1	十三
	木 村 萬 作	84	40. 9.22	太田
	高 松 キ ヤ	84	40.10. 1	十三
	小田 桐 ヌ イ	84	40.11.27	臨元
	田 藤 タ	84	41. 1. 5	太田
	越 谷 と せ	84	41. 2. 3	十三
	三 上 ツ ル	84	41. 4. 5	臨元
	相 川 賢次郎	84	41. 4.27	十三
	小 倉 ツ ヨ	84	41. 5.27	十三
	佐 藤 勝 一	84	41. 7. 5	相内
	中 山 長 松	84	41. 8.19	臨元
	丸 山 ソ メ	83	41. 9.18	太田
	新 洪 ツ ミ	83	41.12.20	磯松
	葛 西 た よ	83	42. 2.10	臨元
	成 田 キ ミ	83	42. 3. 5	十三
	藤 田 ヒ テ	83	42. 3.27	磯松
	相 川 サ ミ	83	42. 5.10	十三
	齊 藤 美佐保	83	42. 5.31	臨元
	亀 田 友之助	83	42. 6. 5	十三
	白 川 永 六	83	42. 8.24	十三

## 東通で'92ヤングサミット開催

# 私たちが 地域のリーダーへ

「過疎地域振興対策の一環として、人づくりのための民間交流（青年対象）を実施し、過疎地の実情把握と情報交換を通じて、地域活性化の高揚を図ることを目的に、「KASOワンダー27ヤングサミット」が開催されました。

今年は、下北郡東通村を会場に、九月三、四日の二日間にわたり、熱い討議が繰り広げられました。県内過疎地二十七町村から百二十人が参加し、本村からは佐藤孝和君、三浦真紀子さんが参加しました。

初日は、交流センターにおいて、開会式の後、県立田名

部高等学校教諭である村元晋氏の「なだつきやわの夢だん」と記念講演がありました。講演の中で村元氏は、桃太郎の話等を例に取り上げながら「何かやろうというグループをつくるときは、イヌ（行動力のある人）、キジ（情報力のある人）、サル（企画力のある人）」が必要である」と、ユイモアを交えながら話し、ヤング達は、それぞれの理解を示していました。その後、尻屋崎灯台を見学、下北半島温泉「平放閣」に会場を移し、ドリンクパーティーを行いました。

二日目は、二十一世紀に向

かって若者の役割をテーマに、九班に分かれて討議が行われました。「若者は失敗を恐れず、それをバネにできるはず」、「自分が主役になって仲間づくりをしよう」、「自分たちだけでいいから選ばれるものを地域に帰たら開催してやろう」などと、積極的な意見交換が行われました。最後に、「私たちが地域のリーダーとなり、郷土愛をほぐくみ、夢の実現のためにKASO27ヤングネットワークを創設、子どもサミット、仮称」を開催します」と満場の拍手で決議しました。



▲グループ討議をする三浦真紀子さん(中央)

## 広がるパノラマ

### —第2回親子登山の集い—



村内で一番目に高い山、木無岳（標高五八七・三m）の山頂をめざし、九月十二日、第二回親子登山の集いが開催されました。

これは、子供たちに必要な社会体験、自然体験をさせることにより、感性やたくましさ

を育てるとともに、登山しながら自然観察を行い森林林業の役割を学ぼうと実施されたものです。

登山には、小学校一年生から六十二歳まで六十五人が参加しました。ふもとまでバスで移動した一行は、途中、山の中腹では樹木当てクイズ

を行うなど、一歩一歩前進し、約一時間半かけて到着しました。眼下には陸奥湾や日本海の七里長浜、もやにかすんだ岩木山などがパノラマのように広がらず、すばらしい眺望を満喫しました。

一行は、あちらこちらに投げ捨てられていた空き缶などのゴミを拾いながら下山し、ふもとでは、豚汁を飲んで和やかに昼食をとりました。その後、森林教室を行い森林のはたらきや国有林などについて勉強し、有意義な一日を過ごした様子でした。

## 青森県健康づくり 事業功労者表彰

九月三日に行われた生き生き健康県民運動推進大会において、青森県健康づくり事業功労表彰者十五名に、太田地区の奈良しづ江さんと、桂川地区の秋田谷セイセイさんが選ばれました。

これはお二人の、地区の健康づくりに対する活動が評価されたもので、今後共ますますの活躍を期待したいと思います。



▶表彰された秋田谷セイセイさん（右）と奈良しづ江さん



# 92ふるさとあそびフェスティバル 安東文化のふるさとをPR

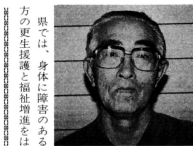


「フェスタあそび」が八月二十二、三日と二日間にわたって、青森県営スケート場において開催されました。このフェスティバルは、県内各市町村の地域づくりの展示、県産品の即売、伝統芸能のステージイベントを行い、ふるさと青森に対する愛着と誇りを一層強くしてもらおうとともに、今後の地域づくりの推進を図るのを狙いとして開催された、今回で二回目となります。

会場には、六十七市町村の展示ブースがズラリと並び、市浦村では、鎌削の復元模

型や唐川城跡をはじめとする遺跡のパネル等を展示し、大変好評でした。また、東日流未来塾生も参加し、「歴史探検ウォーク」のPRや訪れた人たちの質問にも笑顔で答えるなど、市浦村のまちづくりの成果を紹介していました。

型や唐川城跡をはじめとする遺跡のパネル等を展示し、大変好評でした。また、東日流未来塾生も参加し、「歴史探検ウォーク」のPRや訪れた人たちの質問にも笑顔で答えるなど、市浦村のまちづくりの成果を紹介していました。



身体障害者のみなさんお困りのことありませんか  
身体障害者相談員に  
葛西善六さん

県では、身体に障害のある方の更生援護と福祉増進をは

かるため、葛西善六さん（脇元地区・71歳）を身体障害者の相談員に委嘱しました。葛西さんは、市浦村内の身体障害者の更生援護の相談に応じるほか、地域活動において必要な指導に当たっています。が、書類の手続きの仕方でお困りの方やわからないこと、してほしいことなど、どんな小さなことでも相談してほしいと呼びかけています。相談は無料、秘密はかたく守ります。  
住所 市浦村大字脇元字赤川17番地  
電話 六二一〇二四

「サイギサイギドッコイサイギ」と、脇元岩山神社大祭「お山参詣」が、朔（つ）にぎやかに行われ、五穀豊



ぼんち  
20歳の決意  
44人が大人の仲間入り

八月十四日、村コミュニティセンターにおいて、成人式が行われました。「郷土に拓こうわれらの未来」をテーマとし、この日、村内で新たに四十四人（男十九人、女二十五人）が大人の仲間入りをし、式には四十人が出席して祝福を受けました。式典では、木村義光教育長が「未来の可能性を自分の努力でもって切り開いてください」とあいさつし、工藤武則村議会議長が祝辞を述べ、記念品の贈呈が行われました。新成人を代表して、島津護

ちょっと緊張してるかな？

安藤氏の系図

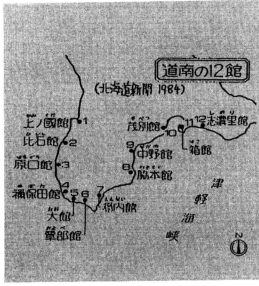
▶ 39 ◀

安藤氏の系図 (26)

忠臣傳記

政季 下國家を繼ぐ

下國家の義季が狼食館で戦死して、安藤氏の本家筋の血統が絶えてしまいました。だが、その本家筋の跡目を相続した人がいました。本号の主人公である「政季」がその人です。「秋田家系図」の「政季」の項に、「



下國安東太郎」と書かれてあります。十三湊本家筋は絶やさないうためにとられ、処置であったものとせよ。義季嗣子無し、潮渇四郎が子を養ふ」と、政季の出自を明らかにしています。潮渇家」については承因即でお話した通り、昔の「車士浜」(外が浜、現在の東津軽郡一帯を支配した

豪族で、十三湊安藤氏(下國)の庶子家になります。もう一度お話ししますと、十三湊法季(別名貞季)の四男の潮方安東四郎道貞の系統になります。現在の青森市の後潟に居が通じますので、ここを居城の拠点にしていたものと思われる。尼八館や蓬田館との関係が色濃く考えられます。

政季 田名部を知りず

「秋田家系図」(義季卒、潮渇四郎道貞の子が「政季」であることになっていますが、「下国伊勢守陪姓の家譜」等に拠りますと、道貞の子潮渇重季の嫡男となっていていす。

政季 渡島す

田名部知知行に、兼父下國義季が生害し、惣領家が断絶したことをいっています。上図は、道南十二館といわれていて、安藤氏ゆかりの館跡です。この外に最近発見されている館跡もあり

して後、政季幼若たるに依りて家臣崎崎若狭守、相原周防守をして近侍せしめ國政を行はしむ」となっています。享徳二年(一四五三)十月九日に兼父義季が戦死した後に、政季がまだ幼少であったことから、家臣である崎崎若狭守(信広)、相原周防守(政風)を広く、相原周防守が政風)を執りて國政を行わせたとしたので、國政を執行させたりした人が誰なのか、その主体がはかりませんが、そのを治めたのかもわかりません。そこで、さきの「下国伊勢守陪姓の家譜」によって、政季が蝦夷島(現北海道)に渡つたことをお話

の八戸で成長し、安東太と名を改め、田名部(現下北郡むつ市)を知りたという事になっています。その年代が不明ですが、渡島の年代が享徳三年(一四五四)ですから以前宝徳頃と仮定しておきましょう。この田名部の城跡は今公園となつていますが、空湊で西北が囲まれ、東南は峻しくそそり立つて堅固な要害となつています。巨木の伐り株があり樹令が数えきれないほどです。北島頭家が陸奥国司として下向した時には、南部師行が押御使となり配下の武田修理赤星五郎を目標としてこの城に派遣したというとも伝承されています。政季が田名部館に命ぜられてきたので武田修理が行ったものと考えられましたが、はかりません。政季が田名部知知行に、兼父下國義季が生害し、惣領家が断絶したことをいっています。

は、鎌倉時代の蝦夷館領時代に蝦夷地の南部、西部にはくまられていました。政季の渡島の理由を考えてみますと、田名部知知行において南部氏の一族の監視の眼が厳しく、おそらく政季の自由にならなかつたことも考えられ、また、兼父義季の敗死も耳にはいる安藤氏の旧領回復の執念も燃焼していたものとも思われます。ですから、政季の渡島の決断と行動は秘密裡のうち開始されたといは推量するのです。享徳三年(一四五四)八月廿八日、大畑から出船して順風に乗りて蝦夷が島へ無事着岸しました。随従者は前述の崎崎武田若狭守(信広)や相原周防守(政風)、河野加賀左衛門尉(政通)、越智氏一等有名人及び「越智」等が有名な人びとです。蝦夷が島から津軽回復戦を計画したものでないいようか。

情報をお寄せください

# おしらせ

役場の電話は62-2111

市浦村の人口と世帯数 平成4.9.1現在

大字名	前月人口	人口	世帯数
相内	1,373	1,379	411
桂川	81	81	22
太田	302	301	94
脇元	611	611	206
磯松	343	343	118
十三	841	842	260
計	3,551	3,557	1,111

県営農大校学生募集

営農大校では、農業を志す青年に對して、農業に関する知識及び技術と経営能力を修得させるとともに、社会情勢の変化に対応し得る応用力と実践能力を養い、地域農業の中核的担い手となり得る農業経営者を養成するため、次のとおり平成5年度の学生を募集します。

- ◇募集人員…男女70名。
- ◇募集課程…畑作園芸課程、果樹課程、畜産課程。
- ◇修業年限…2年（全寮制）
- ◇出願手続
  - 一般入校試験
  - 願書受付期間…平成5年1月20日～2月3日。
  - 入校試験…平成5年2月10日。
  - 試験科目…筆記試験（国語・1・生物・作文）面接試験。
  - ＜推薦入校制度＞  
農業関係学科を履修した者は、推薦入校制度の適用を受けられるので積極的に利用して下さい。
  - 募集人員…定員の3分の1を越えない人数。
  - 願書受付期間…平成4年11月5日～11月25日。
  - 選考試験…平成4年12月4日。
  - 試験方法…筆記試験（作文）面接試験。
- ◇合格者の発表…平成5年2月29日、同校掲示板に掲示するほか、合格者に直接通知する。
- ◇経費…受験料、入学金、授業料は無料。諸経費（教科書代、寮

費等）として、1年次60万円、2年次40万円程度。

◇その他詳しいことは、青森県営農大校校務課（電話0176-62-3111番）又は、金木地区農業改良普及所（電話 52-2265）へお問い合わせください。

自衛官募集

防衛大学校、防衛医科大学校学生及び看護学生の募集を行っています。

種別	募集資格	受付期間	第一次試験	第二次試験
防衛大学校学生	平成5年4月1日現在 18才以上 21才未満の男子及び女子	平成4年10月1日 11月5日	平成4年11月14日 11月15日	
	平成5年4月1日現在 18才以上 21才未満の男子	平成4年10月1日 10月26日	平成4年11月7日 11月8日	
看護学生	平成5年4月1日現在 18才以上 22才未満の女子	平成4年10月1日 10月31日	平成4年11月12日	

\*詳しくは自衛隊青森地方連絡部五所川原募集事務所  
五所川原市栄町34 ☎0173-35-2305まで  
\*その他年間を通じて2等陸、海、空士（男子）の募集を行っています。

出稼ぎと国民年金

国民年金の加入者は、農業などの第一号被保険者、サラリーマンなどの第二号被保険者、そしてサラリーマンの奥さんの第三号被保険者の三種類に分かれています。

このため農閑期に出稼ぎによって、出稼ぎ先で厚生年金に加入するときは、第一号被保険者から第二号被保険者になり、その奥さんは、健康保険の被扶養者に認定されると、第三号被保険者になりますから、加入種別を変更する届が必要になります。

この届をすれば、国民年金の保険料を納めなくてもよくなります。また、出稼ぎを終えて帰ってきたときは、二人とも第一号被保険者になりますから、再度加入種別を変更する届が必要となりますので、忘れないでください。  
詳しいことは、役場住民福祉課までお気軽にどうぞ。

県税事務所

平成5年に使用する軽油引取税の農業用免税証等交付申請書下記の日程で受付します。

記  
場所 五所川原市栄町10  
青森県五所川原合同庁舎  
1階相談室  
日時 平成4年11月9日  
午前9時から午後3時まで  
※申請用紙は、県税事務所、農業協同組合及び軽油販売店にあります。  
※農協、販売店に申請書の提出を依頼する人は、申請書の受付日前に各農協、販売店へ。

詳しいことは、五所川原県税事務所開税課（電話34-2111）へお気軽にどうぞ。

県内の交通事故概況

青森県交通対策協議会

	8月	累計	死者のう	飲酒運転による死者
発生	737 (763)	4,920 (4,995)		28
死者	14 (12)	97 (82)	シートベルト非着用者	51
傷者	936 (1,000)	6,005 (6,140)	着用者	42
			着用者	14
			着けていれば助かったと思われる人	

( )内は前年。累計は1月から



# 予防接種を受けよう!

内に入れ、生体の免疫機構を働かせ、感染症に対する抵抗力をつくることです。

村では主として幼児児、児童・生徒を対象に予防接種を実施しています。(表1参照)

原則としては住民登録をしていてる市町村でなければ受ける事はできません。しかし種々の都合で他県、他町村で受けざるを得ない時は、役場から予防接種依頼書が出ますのでご相談下さい。また予防接種全般についての問い合わせも気軽にご連絡下さい。

連絡先 ☎622111・内線3334

住民福祉課 健康管理係

又は保健婦まで

予防接種とは……  
病気がかかってから治すよりも、一人ひとりがかからないように予防する事が大切です。そもそも伝染病に対する免疫は種類によって母親の胎盤を通して出生時に得られるものですが、それも半年から一年で消失します。  
予防接種は伝染病に対する免疫をつけて病気にかからにくくするとともに、伝染病のまん延を防止する最も効果的な方法です。わが国の予防接種は予防接種法と結核予防法によって行われており、定期接種と臨時接種の二種類があります。また予防接種事故の救済制度も整備されています。他に任意接種できるものもあります。  
一度感染症にかかったら、二度とかからないか、かかりにくくなることを免疫といえます。予防接種は、病原体からつくりだしたワクチンを体



表 I

種別	3 カ 月	6 カ 月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳(小 学 生)	12 歳(中 学 生)	接種の方法
百日せき	1期 接種	生後3か月から48か月のあいだ(注) 2期接種								1〜5歳の期間で3回注射。破傷風トキソイドを混ぜた三種混合ワクチンを接種。 注三種類混合ワクチンをもちいて1回の注射。 注ジフテリア・破傷風二種混合ワクチンをもちいて1回の注射。
ジフテリア		1期接種 2期接種								注1歳に接種する
ポリオ		生後3か月から48か月のあいだ(注) 2期!								注生後3か月から48か月のあいだに接種すること なるべく18か月までのあいだに接種すること
麻疹										注生後12か月から12か月のあいだに接種すること 希望者によりMMRWワクチンを接種すること ができる
風しん										注12か月以降の希望者 婦しんの定期接種時にMMRWワクチンを接種すること ができる
インフルエンザ										注女子 中学生に1回 注射
日本脳炎										注1歳 1〜4歳の期間で2回。 毎年接種
ウイルス病										注1歳 1〜4歳の期間で2回。 毎年1回。
破傷風										注1歳 5歳の期間で2回。 その後おおよそ3年ごとに注射。
任意接種										注4〜8歳おおよそ3回(注破傷風トキソイド) 注9〜14歳おおよそ2回、 6〜18か月毎に1回。
おたふくかぜ										注乳幼児期に二種混合(百日せき、ジフテリア、破傷風)または二種混合(ジフテリア、破傷風)をうけていない場合はあいじける
B型肝炎										注12か月以降の希望者 婦しんの定期接種時にMMRWワクチンを接種すること ができる
B型肝炎										注HIV・抗原陽性の母親から生まれたHIV・抗原陽性の乳児、その他・ウイルス者
B型肝炎										注出生直後と2か月後に免疫グロブリンを2回接種。その後、生後2、3、6か月の間にワクチンを3回接種する。
結核予防法										注12か月以降の希望者 婦しんの定期接種時にMMRWワクチンを接種すること ができる



お誕生



戸籍の窓

三浦 由衣(相内) 益昭雄  
須藤 紗矢(相内) 和廣  
鎌田 彩花(相内) 康平  
高松 美月(相内) 隆道  
成田 重祐(相内) 安義  
田中 裕仁(相内) 安義  
工藤 枝里奈(相内) 一行  
長尾 康敬(相内) 信彦  
今川 千亘(相内) 一彦  
今井 亘(相内) 一彦  
齋藤 拓人(相内) 雅夫  
中村 裕汰(相内) 裕継  
奈良 彩加(相内) 卓仁  
成田 優太(相内) 卓仁  
三浦 晃太郎(相内) 晃一  
奈良 香太(相内) 晃一  
寿騎 太田(相内) 博行

葛西 ふみ江(監元) 64歳  
白川 達夫(十三) 48歳  
藤田 角松(磯松) 90歳  
和嶋 勇喜雄(磯松) 87歳  
鳴海 ツガ(磯松) 60歳  
和嶋 ツガ(磯松) 87歳  
三重 ミサ(十三) 89歳

加藤 悟(富山) 64歳  
藤田 範昭(磯松) 64歳  
星田 直枝(磯松) 64歳  
三井 直樹(磯松) 64歳  
永田 伸香(青森) 64歳  
渡邊 伸香(東京) 64歳  
成田 裕美(磯松) 64歳  
谷本 裕治(相内) 64歳  
今川 裕美(磯松) 64歳  
野中 裕美(相内) 64歳  
佐藤 敏香(相内) 64歳  
三井 和香(相内) 64歳  
水野 勝子(相内) 64歳  
小野 勝子(相内) 64歳  
岡本 龍一(磯松) 64歳  
工藤 龍一(磯松) 64歳  
齋藤 昌仁(磯松) 64歳  
相坂 昌仁(磯松) 64歳  
永田 昌仁(磯松) 64歳  
木村 智和子(十三) 64歳

おくやみ

ご結婚